

首都圏就活生の企業選びに関する意識調査2024

< 詳細版 >

8割超が「従業員のためにサテライトオフィスなどを用意している企業で働くことは魅力的」と回答

2024年3月14日

ザイマックス不動産総合研究所

調査概要

少子高齢社会の日本において、企業が若い労働力を獲得することの重要性和難易度は増している。若年層に選ばれるための第一歩はその価値観や志向を知ることだが、コロナ禍による社会変革を目の当たりにし、自らも大学のリモート講義などを経験した現代の就活生は、就職先企業を選ぶ際の行動や価値観が旧世代とは異なるのではないだろうか。具体的には、待遇や仕事内容といった従来の価値基準に加え、「働く場所と時間の柔軟さ」を強く意識している可能性がある。

ザイマックス不動産総合研究所（以下、ザイマックス総研）では2016年から「首都圏オフィスワーカー調査」を過去8回実施し、オフィスで働く人々の働き方と働く場所の変遷を分析してきたが、今回初めて「就活生」を対象にした調査を実施した。オフィスワーカー予備軍ともいえる就活生らの企業選びにおける行動や価値観を知ること、減少し続ける若年ワーカー層を求める企業に対してヒントを提示したい。

調査期間	2023年12月25日～12月27日、2024年1月24日～2月4日
調査対象	就活の状況が「就職先が決定して、就職活動を終了した」か「現在、就職活動中」または「これから就職活動を始める予定」である、首都圏在住の大学3年生から大学院生 ※対象大学：首都圏所在の大学（慶應義塾大学、上智大学、東京大学、東京外国語大学、東京工業大学、筑波大学、一橋大学、横浜国立大学、早稲田大学、その他）計51校と、首都圏所在の大学院
有効回答数	364件
調査方法	インターネット調査

回答者属性					
年代	19歳	1 (0.3%)	性別	男性	140 (38.5%)
	20歳	19 (5.2%)		女性	224 (61.5%)
	21歳	109 (29.9%)	居住地	東京都	158 (43.4%)
	22歳	122 (33.5%)		神奈川県	73 (20.1%)
	23歳	52 (14.3%)		千葉県	49 (13.5%)
	24歳	35 (9.6%)		埼玉県	55 (15.1%)
	25歳	21 (5.8%)		茨城県	16 (4.4%)
	26歳	5 (1.4%)		栃木県	4 (1.1%)
学年	大学3年	119 (32.7%)	文理選択	山梨県	6 (1.6%)
	大学4年以上	193 (53.0%)		群馬県	3 (0.8%)
	大学院 修士課程1年	9 (2.5%)		文系	241 (66.2%)
	大学院 修士課程2年以上	39 (10.7%)		理系	120 (33.0%)
	大学院 博士課程1年	1 (0.3%)		その他	3 (0.8%)
	大学院 博士課程2年以上	3 (0.8%)	就活の状況	就職先が決定して、就職活動を終了した	189 (51.9%)
				現在、就職活動中	121 (33.2%)
				これから就職活動を始める予定	54 (14.8%)

レポート内のグラフに関して：構成比（％）は、小数点第2位を四捨五入しているため内訳の合計が100%にならない場合がある。

主な調査結果

1. 就活生の企業選びの傾向と価値観（P.4～）

- 就職活動で企業を選ぶ際に重視する条件では、「給与や待遇」（71.4%）や「仕事内容」（67.0%）が上位となった。また、「ワークライフバランスへの配慮」（33.5%）や「働く場所の自由度（テレワークなど）」（26.4%）、「働く時間の自由度（フレックスタイム制度など）」（23.4%）など、働き方のフレキシビリティに関する項目についても2～3割の就活生が重視していることがわかった。
- 理想に最も近い働き方を聞いた結果、「ハイブリッドワーク（オフィス出社とテレワークの両方を使い分けて働く）」を選択した人が67.0%と最多であった。
- 81.6%が、従業員のためにサテライトオフィスなどのテレワークする場所を用意している企業で働くことは魅力的だと思う（または「ややそう思う」）と回答した。
- オフィスの条件では、「交通利便性が高い都心のオフィス街に立地している」と「自宅から近く通勤時間が短いエリア（郊外・住宅地など）に立地している」の2項目を「重視する（やや重視する）」と回答した人が多かった。
- 就職先の企業で導入してほしい働き方の施策では、「フレックスタイム制度」（47.3%）や「在宅勤務手当（備品や光熱費等）」（40.7%）が上位となった。また、「ワーケーション」（20.9%）や「将来的にUターンやIターンをしても同じ企業で働き続けられる制度」（8.8%）といった先進的な施策についても一定の支持があることがわかった。
- 企業選びにあたって不安に感じていることでは「配属先や上司によって働き方の柔軟性に差があるのではないか（配属ガチャ）」が46.2%でトップとなった。また、2位は「入社直後からテレワークさせられて教育機会が不十分にならないか、放置されないか」（35.2%）で、「テレワークでできる仕事でも毎日出社を求められるか」（24.5%）を上回った。
- 働くことに対する意識や価値観について、「仕事よりもプライベートを重視する」を選択した人は53.1%に上り、相対する「プライベートよりも仕事を重視する」（24.2%）の2倍以上となった。また、「ジョブ型雇用の企業で働きたい」（37.1%）も「メンバーシップ型雇用の企業で働きたい」（23.9%）よりも高い結果となった。

2. <資料編①> 男女別による特徴（P.10～）

3. <資料編②> 文理選択別による特徴（P.14～）

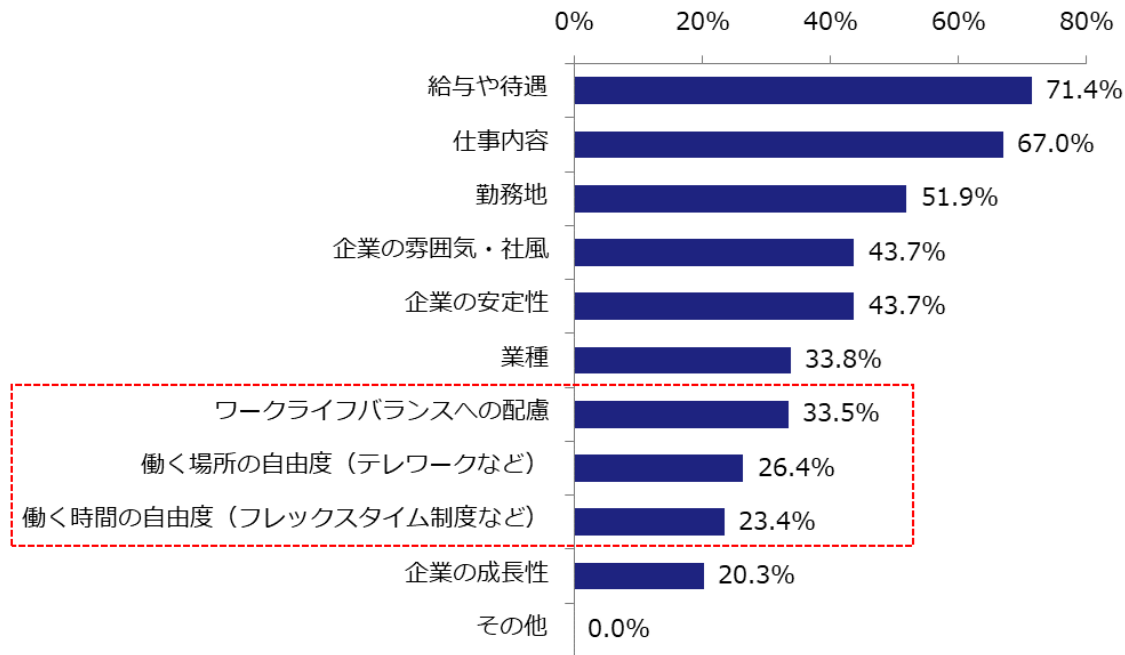
1. 就活生の企業選びの傾向と価値観

「ワークライフバランスへの配慮」や「働く場所の自由度」を約3割の学生が重視

就職活動で企業を選ぶ際に重視する条件を複数の選択肢から選んでもらった結果、「給与や待遇」（71.4%）や「仕事内容」（67.0%）が上位となった【図表1】。

また、「ワークライフバランスへの配慮」（33.5%）や「働く場所の自由度（テレワークなど）」（26.4%）、「働く時間の自由度（フレックスタイム制度など）」（23.4%）など、働き方のフレキシビリティに関する項目についても2～3割の就活生が重視していることがわかった。

【図表1】 就職活動で企業を選ぶ際に重視する条件



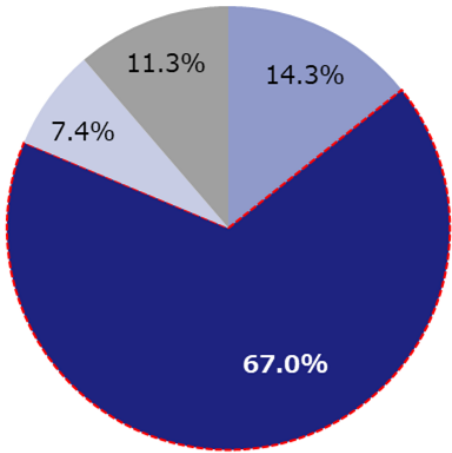
集計対象：全体（n=364）／複数回答

就活生の約7割が「理想の働き方はハイブリッドワーク」と回答

「完全出社（毎日決まったオフィスに出社する）」、「ハイブリッドワーク（オフィス出社とテレワークの両方を使い分けて働く）」、「完全テレワーク（毎日テレワークで基本的には出社しない）」という3種類の働き方から理想に最も近いものを聞いた結果、「ハイブリッドワーク」を選択した人が67.0%と最多であった【図表2】。

これに対し、「完全出社」（14.3%）と「完全テレワーク」（7.4%）は少数派であることがわかった。

【図表2】理想の働き方



- 完全出社（毎日決まったオフィスに出社する）
- ハイブリッドワーク（オフィス出社とテレワークの両方を使い分けて働く）
- 完全テレワーク（毎日テレワークで基本的には出社しない）
- わからない

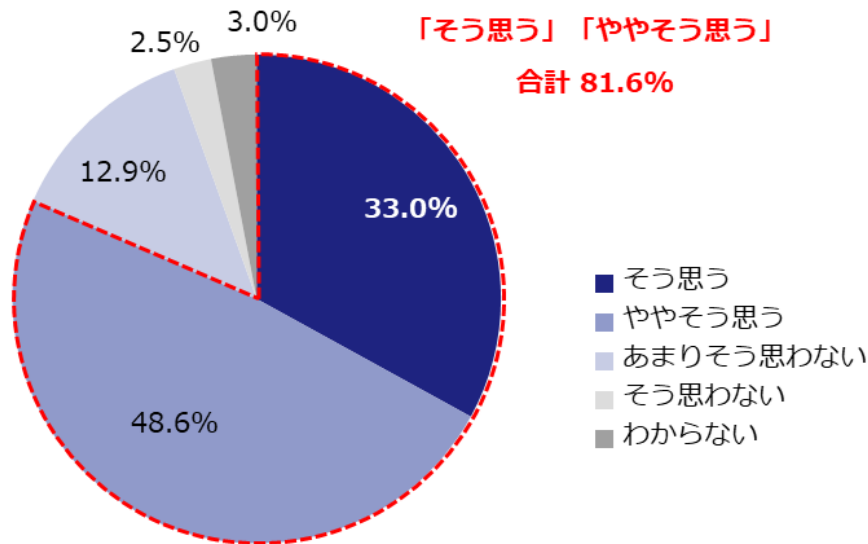
集計対象：全体（n=364）

8割超の就活生が、「サテライトオフィスなどを用意している企業で働くことは魅力的」と回答

テレワークを導入するにあたり、在宅勤務だけでなく、法人向けサテライトオフィスサービスなどを契約する企業は増加傾向にある。

そこで、サテライトオフィスやシェアオフィスといったテレワーク拠点サービスの説明をしたうえで、従業員のためにサテライトオフィスなどのテレワークする場所を用意している企業で働くことは魅力的だと思うかどうかを聞いた結果、81.6%が「そう思う」または「ややそう思う」と回答した【図表3】。

【図表3】従業員のためにサテライトオフィスなどのテレワークする場所を用意している企業で働くことを魅力的だと思う割合



集計対象：全体 (n=364)

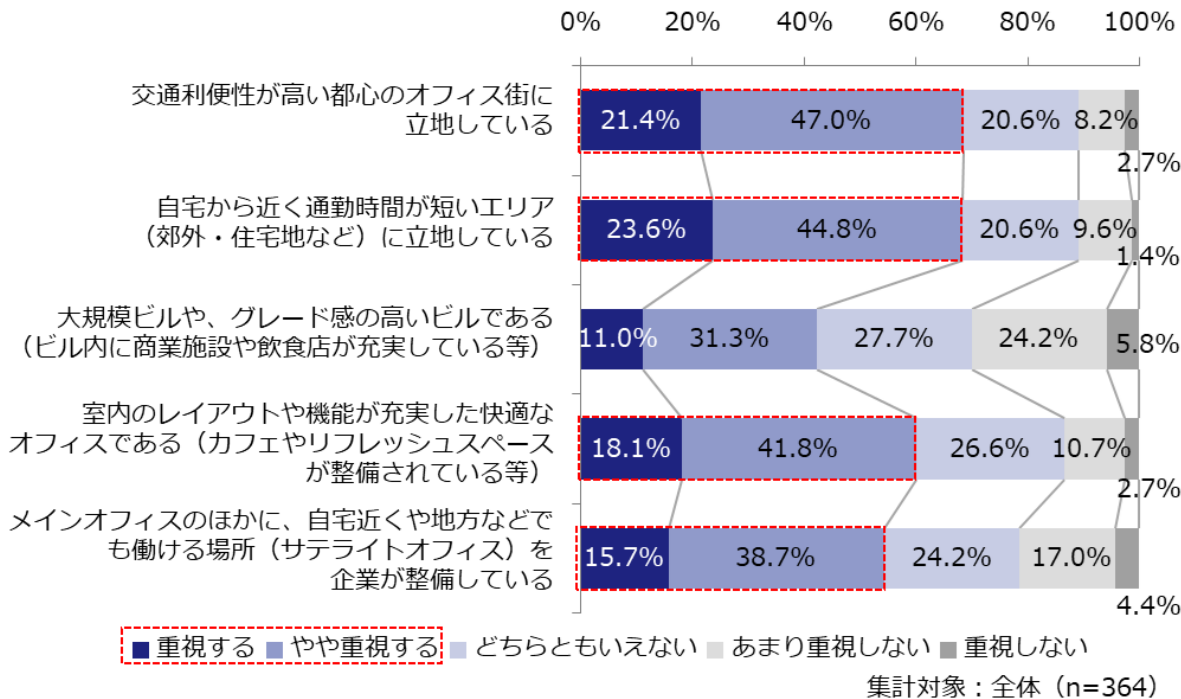
オフィス立地の「都心と郊外」は相反する二項対立ではなく、双方ともに魅力的な条件に

企業選びにおいて、オフィスのさまざまな条件をどの程度重視するかを聞いた結果が【図表4】である。「重視する（やや重視する）」の割合が高かったのは「交通利便性が高い都心のオフィス街に立地している」（68.4%）と「自宅から近く通勤時間が短いエリア（郊外・住宅地など）に立地している」（68.4%）の2項目であった。

このことから、オフィス立地の「交通利便性の高さ」と「自宅からの近さ」は就活生にとって、ともに魅力的な条件となっていることがうかがえる。同様に、「メインオフィスのほかに、自宅近くや地方などでも働ける場所（サテライトオフィス）を企業が整備している」（54.4%）も過半数が支持しており、ハイブリッドなオフィス戦略に対するニーズが若年層にも広がっているのかもしれない。

また、「室内のレイアウトや機能が充実した快適なオフィスである（カフェやリフレッシュスペースが整備されている等）」（59.9%）を重視する割合も比較的高く、「大規模ビルや、グレード感の高いビルである（ビル内に商業施設や飲食店が充実している等）」（42.3%）を上回った。

【図表4】 オフィスの条件で重視すること

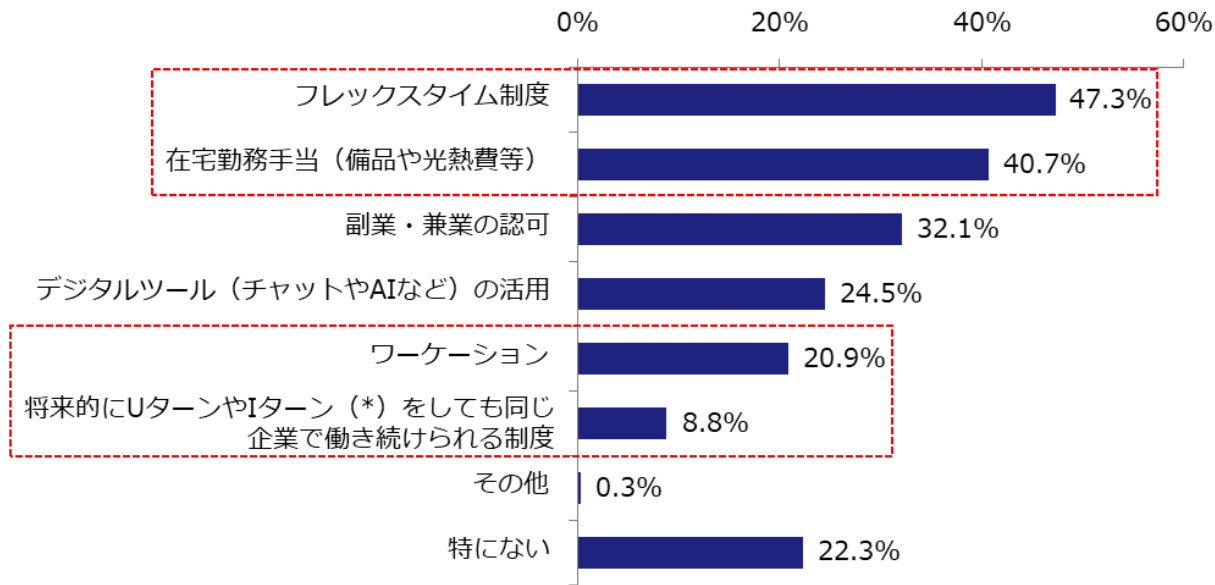


働き方の施策では「フレックスタイム制度」や「在宅勤務手当」へのニーズが高い

就職先の企業で導入してほしい働き方の施策では、「フレックスタイム制度」（47.3%）や「在宅勤務手当（備品や光熱費等）」（40.7%）が上位となった。

また、割合は高くはないが、「ワーケーション」（20.9%）や「将来的にUターンやIターン（*）をしても同じ企業で働き続けられる制度」（8.8%）といった先進的な施策についても一定の支持があることがわかった。

【図表5】 就職先の企業で導入してほしい働き方の施策



集計対象：全体（n=364）／複数回答

*Uターンは出身地に帰ること、Iターンは出身地以外の地方に移住すること

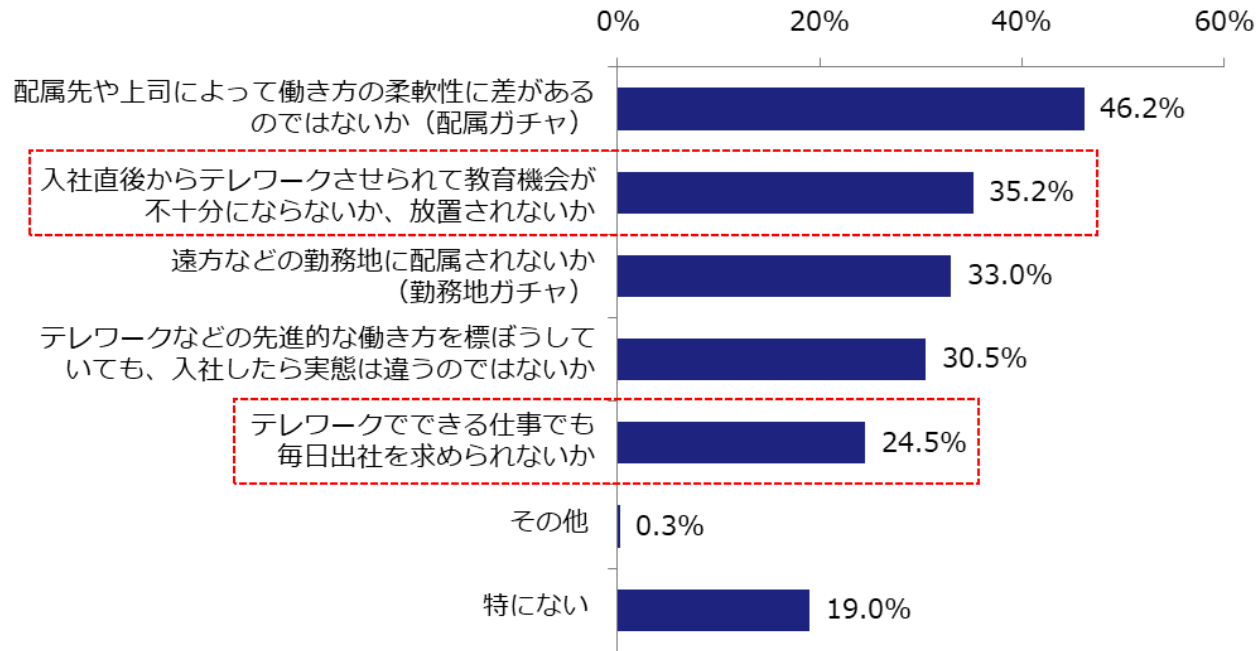
不安の1位は「配属ガチャ」、次点は「入社直後からのテレワークで放置されないか」

テレワークなどの新しい働き方が広がるなか、企業選びにあたって不安に感じていることでは「配属先や上司によって働き方の柔軟性に差があるのではないか（配属ガチャ）」が46.2%でトップとなった。

また、2位は「入社直後からテレワークさせられて教育機会が不十分にならないか、放置されないか」（35.2%）で、「テレワークでできる仕事でも毎日出社を求められないか」（24.5%）を上回った。

若者はテレワーク（ハイブリッドワーク）の利用意向が高いものの、出社したくないわけではなく、必要に応じて適切に出社とテレワークを使い分けられる環境を求めているといえるだろう。

【図表6】 企業選びにあたって不安に感じていること



集計対象：全体（n=364）／複数回答

「仕事よりもプライベートを重視する」は5割超、「ジョブ型雇用の企業で働きたい」は約4割

働くことに対する意識や価値観について、

【A】と【B】どちらの選択肢に近いかを5段階尺度で回答してもらった結果が【図表7】である。【A】と比較すると【B】の方がより先進的・柔軟な志向となっている。

「Bに近い（どちらかといえばBに近い）」の合計割合が最も高かったのは「仕事よりもプライベートを重視する」（53.1%）で、相対する「プライベートよりも仕事を重視する」（24.2%）の2倍以上となった。

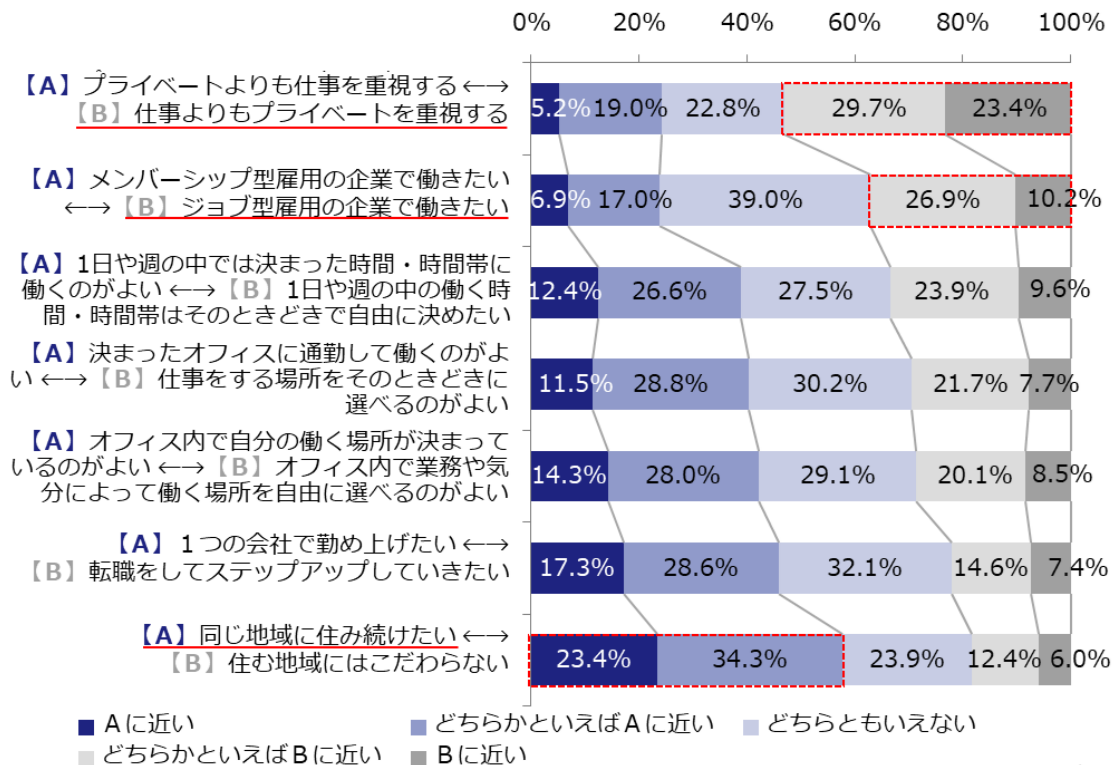
また、「ジョブ型雇用の企業で働きたい」（37.1%）も相対する「メンバーシップ型雇用の企業で働きたい」（23.9%）よりも高い結果となった。

一方で、働く場所や時間の柔軟性に関する各設問では、より保守的・固定的といえる

【A】を選択した人の方が多い傾向がみられた。特に「同じ地域に住み続けたい」

（57.7%）は、相対する「住む地域にはこだわらない」（18.4%）を大きく上回った。

【図表7】働くことに対する意識や価値観

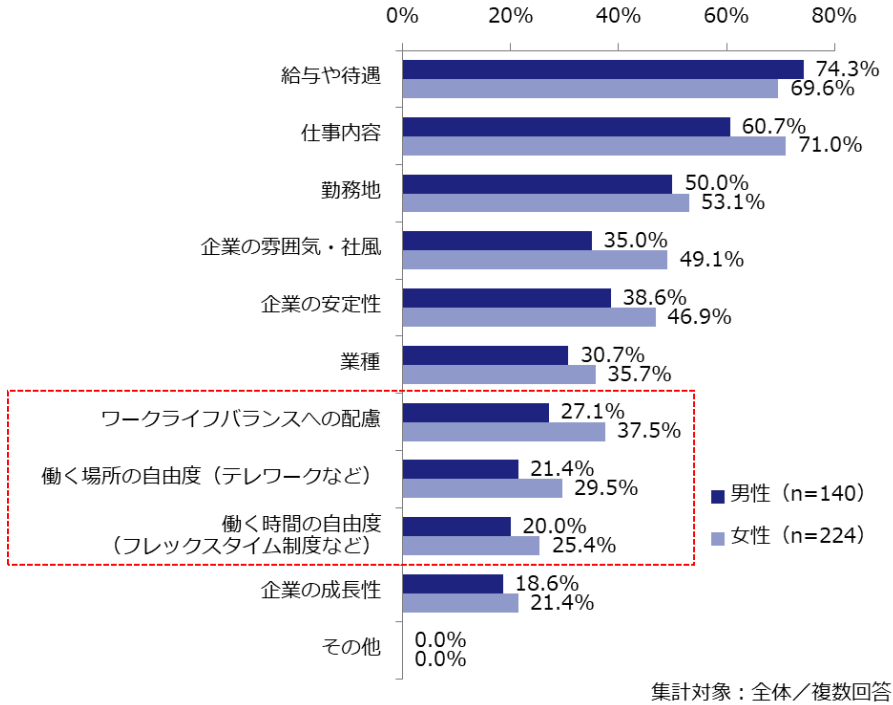


集計対象：全体（n=364）

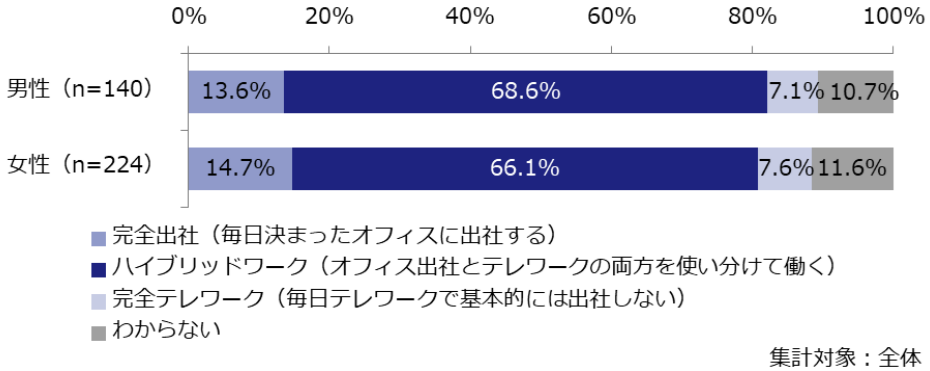
2. ＜資料編①＞男女別による特徴

「サテライトオフィスがある企業で働くことを魅力的だと思う」女性は85%、男性より高い【図表10】

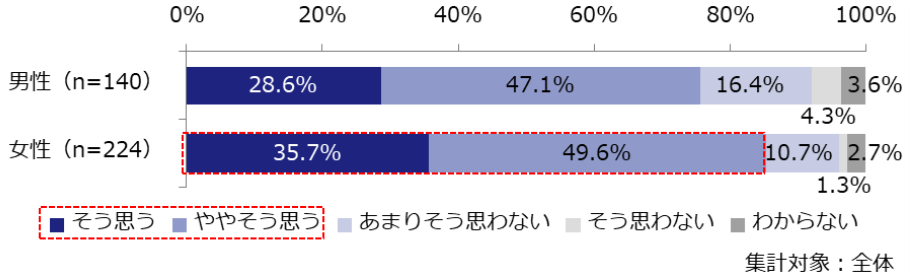
【図表8】 <男女別> 就職活動で企業を選ぶ際に重視する条件



【図表9】 <男女別> 理想の働き方



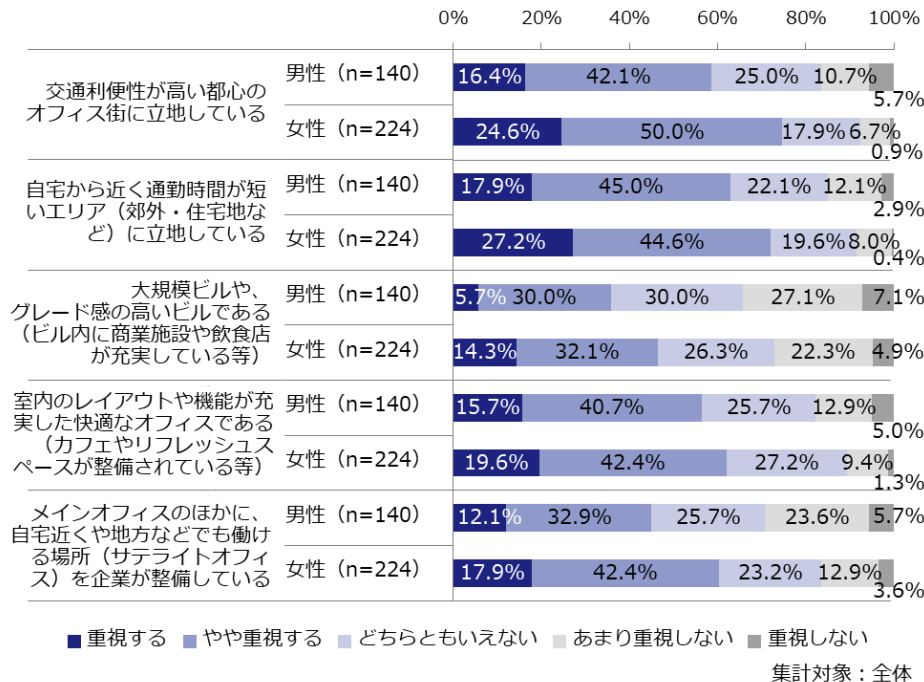
【図表10】 <男女別> 従業員のためにサテライトオフィスなどのテレワークする場所を用意している企業で働くことを魅力的だと思う割合



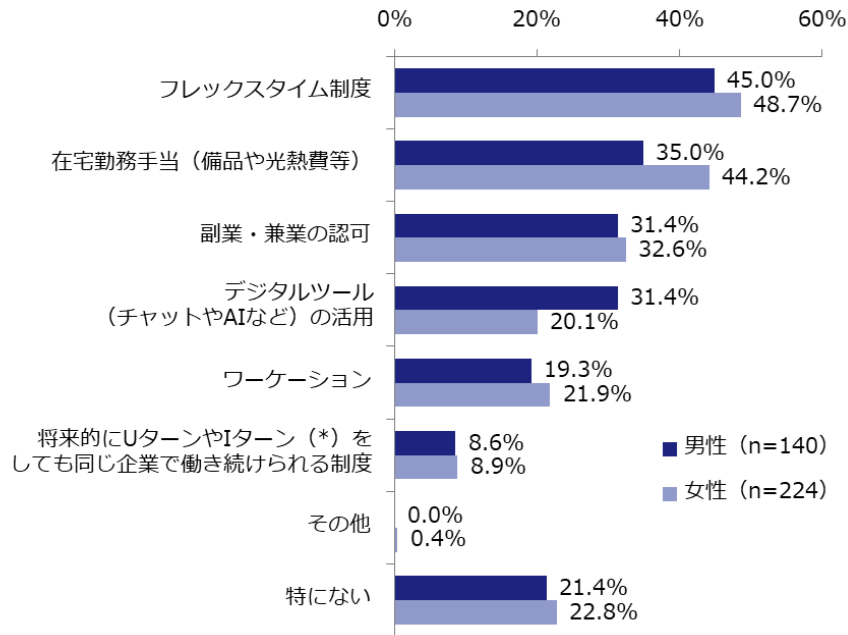
2. <資料編①> 男女別による特徴

女性により多くの施策を求めているが、「デジタルツールの活用」は男性のニーズの方が高い【図表12】

【図表11】 <男女別> オフィスの条件で重視すること



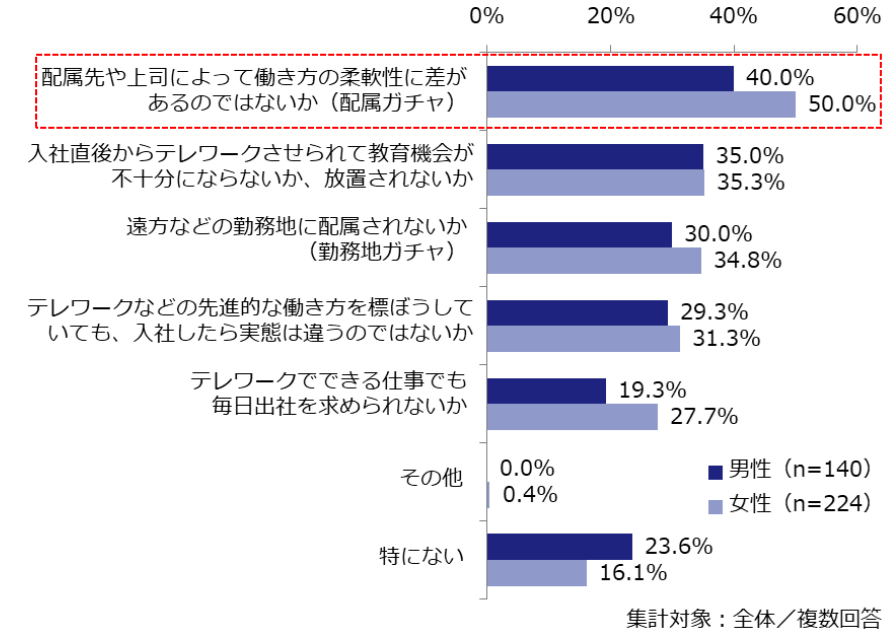
【図表12】 <男女別> 就職先の企業で導入してほしい働き方の施策



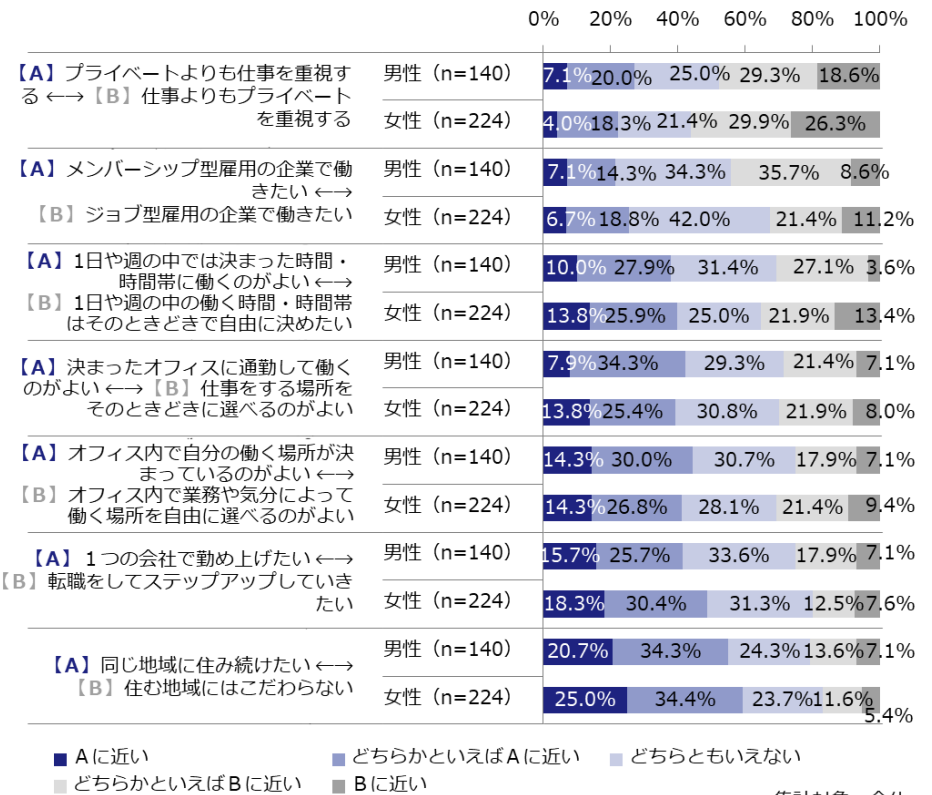
*Uターンは出身地に帰ること、Iターンは出身地以外の地方に移住すること

女性の5割が「配属ガチャ」に不安を感じている【図表13】

【図表13】 <男女別> 企業選びにあたって不安を感じていること



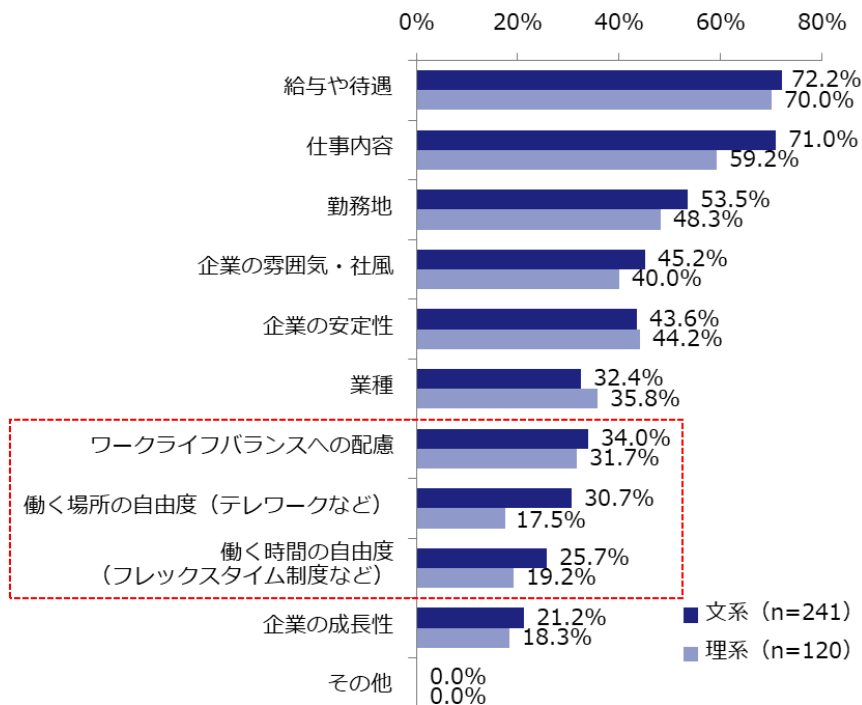
【図表14】 <男女別> 働くことに対する意識や価値観



3. <資料編②>文理選択別による特徴

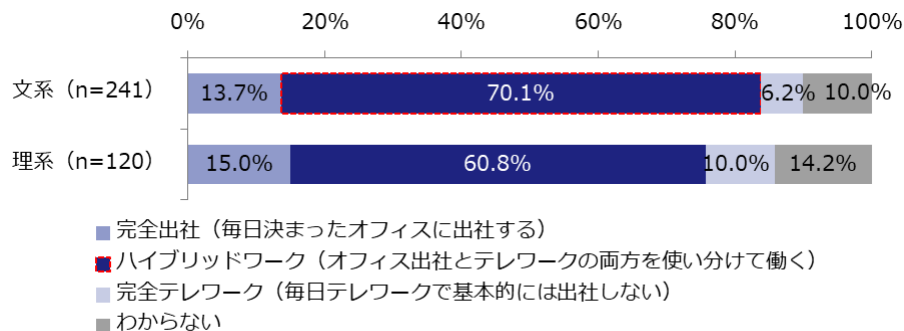
文系学生の方がハイブリッドワークやサテライトオフィスに関心あり【図表16,17】

【図表15】 <文理選択別> 就職活動で企業を選ぶ際に重視する条件



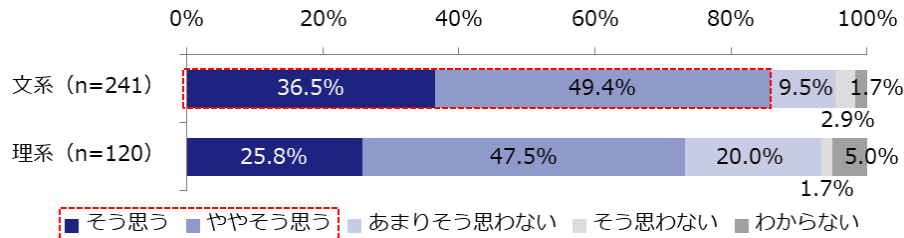
集計対象：文理選択「その他」を除く／複数回答

【図表16】 <文理選択別> 理想の働き方



集計対象：文理選択「その他」を除く

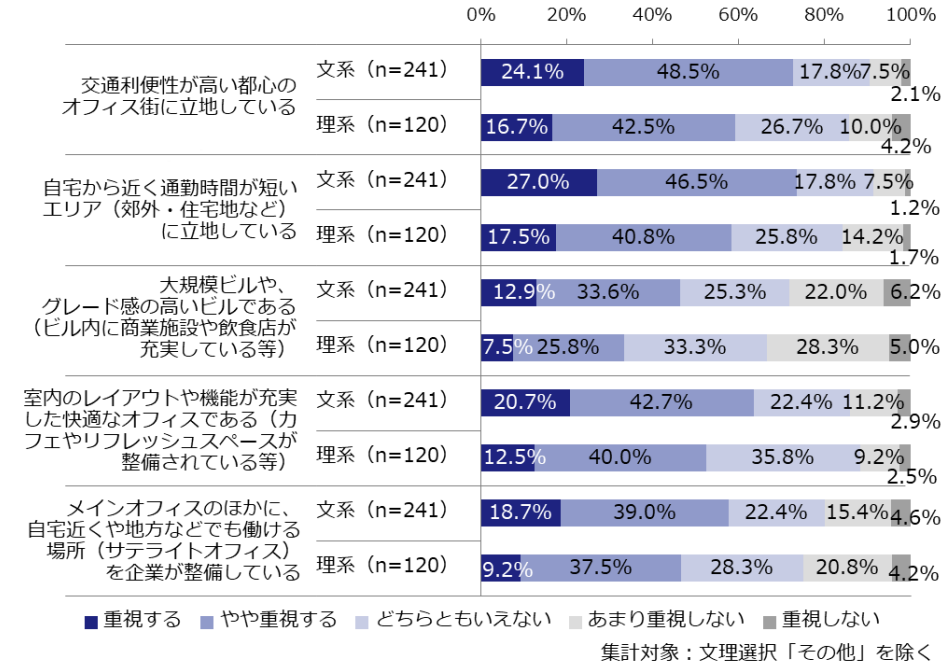
【図表17】 <文理選択別> 従業員のためにサテライトオフィスなどのテレワークする場所を用意している企業で働くことを魅力的だと思う割合



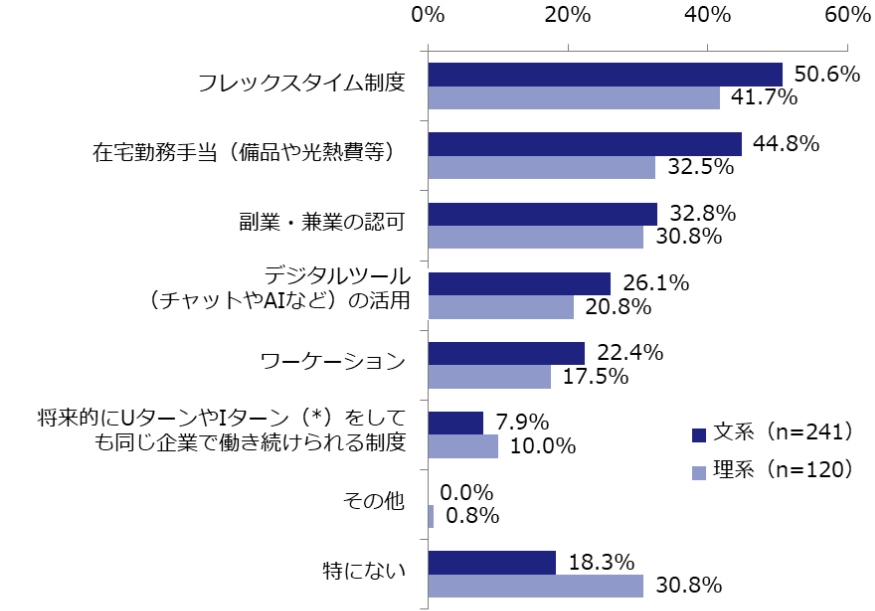
集計対象：文理選択「その他」を除く

文系学生の方が、オフィスにより多くの条件を求めている【図表18】

【図表18】 <文理選択別> オフィスの条件で重視すること



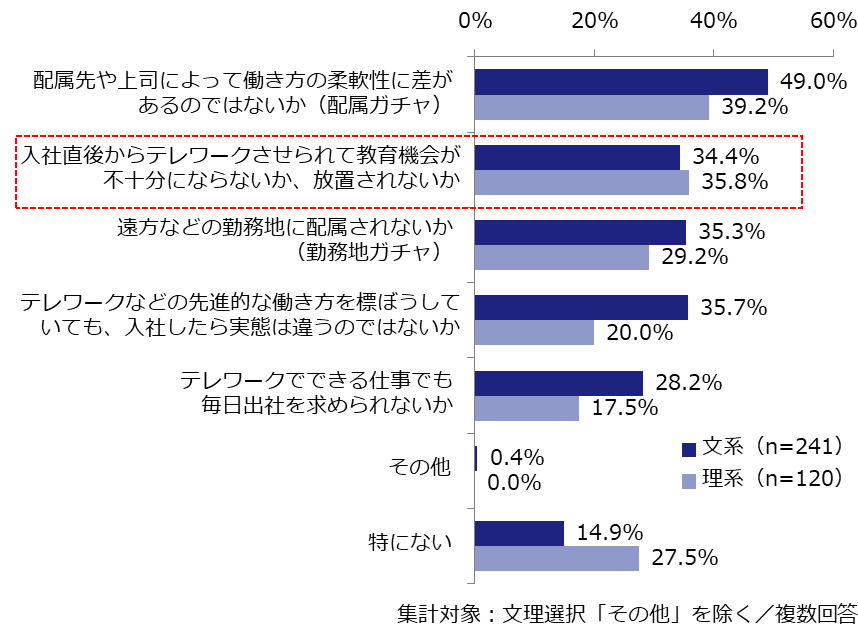
【図表19】 <文理選択別> 就職先の企業で導入してほしい働き方の施策



集計対象：文理選択「その他」を除く／複数回答
 *Uターンは出身地に帰ること、Iターンは出身地以外の地方に移住すること

理系学生の35.8%は「入社直後からテレワークさせられて教育機会が不十分にならないか」が不安【図表20】

【図表20】 <文理選択別> 企業選びにあたって不安に感じていること



【図表21】 <文理選択別> 働くことに対する意識や価値観

